

川坂湿原を生かした地域おこし ～霞堤とともに歩む～



宮崎県延岡市
川坂川を守る会／宮崎県



手づくり郷土賞
について

受賞記念発表会

講評

大賞部門

一般部門

資料編

1 社会資本の概要

川坂川は、一級河川北川の支川です。北川の治水対策は、地形条件や地域住民が川と共に暮らす姿勢を崩すこと無く、川の恩恵を受容できる方策を地元住民とともに検討する中で、河川の増水に対して、堤防に開口部を設けて浸水を受け入れる霞堤を採用し、被害を最小限にする方策がとられています。北

川の霞堤内を流れる川坂川では、河道内外の草刈りが地区の共同作業として古くから行われ、その人為攪乱の効果と北川の氾濫水や豊富な湧水が相まって、河道とその横の湿地には多様な絶滅危惧種が保全され、日本の重要湿地 500、祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク(移行地域)などに指定されています。



北川の霞堤(別名:信玄堤)
平成28年9月台風16号による浸水状況



古くから行われている地区共同作業「草刈りと溝さらえ」

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

霞堤内上流端に位置する川坂湿原については、県内外の研究者からオグラコウホネ、ナガバノウナギツカミ、サデクサなどの絶滅危惧種が数多く生息する希少な湿原として認識されていましたが、地元では特に保護してきたものではなく、集落の共同作業などの日々の営みの中で結果的に守られてきたものでした。徐々に湿原の素晴らしさが分かり、保全意

識が芽生え、平成22年より当該団体の活動が始まりました。主に川坂湿原の草刈り、溝さらえ、外来種駆除などの湿原の保全活動を行うなかで高齢化による労働不足の解消を図るため、2018年に「川坂湿原保全プロジェクト」と銘打って関係機関・団体と連携し、若者や外部の参加者を募り、集落全体を巻き込んで作業を実施しました。



絶滅危惧種 オグラコウホネ



湿原の外来種を駆除



「川坂湿原保全プロジェクト2018」の様子

3 活動の成果や波及効果等

湿原環境保全の重要性を伝える湿原ガイドブックの発行、県内外からの個人・団体の訪問者に対してのボランティアガイド、大学から研究者を招いて霞堤の役割や治水のあり方を見直すワークショップ「北川の霞堤と生きる!」の開催など、活動の幅は多岐に及んでいます。また、当該団体の活動から新たに生まれた「川坂よくし隊」が、資源ゴミを回収して販売することにより自主財源を捻出し、街灯のLED化や公民館の空調整備など行政に頼らない地域おこしに取り組むなど、自らの手による地域おこしの先導役を担っています。このような自主的な活動を継続することにより、行政機関や企業からの支援の輪が広がるとともに、地域全体から信頼を得ています。



ワークショップ「北川の霞堤と生きる!」地元住民の約40名が毎回参加して、「霞堤との共生」について学習

●● 喜びの声 ●●



受賞者

川坂川を守る会
会長 安藤 重徳

コメント

活動にご協力をいただいた川坂地区の方々、ご支援くださった関係者の皆様に心から感謝申し上げます。今回の受賞で刺激を受け、会員も決意を新たにしています。子どもの声がこだまする集落を目指し、活動テーマである「自然と人が元気な里地・里山づくり」を今後も続けていきたいと思

活動の内容

川坂湿原の環境保全／ボランティアガイド／HP運営／湿原ガイドブック発行／イベント開催／農家民泊／資源物回収 など

活動の経緯

- 平成22年 川坂川を守る会設立
- 平成24年 有害獣防護フェンス設置
- 平成25年 川坂集落里山林の整備
- 平成26年 60年ぶりに春祈禱復活
- 平成30年 霞堤ワークショップ開催
湿原保全プロジェクト

所在地

宮崎県延岡市北川町長井川坂

活動主体及び連絡先

川坂川を守る会
(0982-46-3232)

対象となる社会資本

川坂川
※管理者：宮崎県



手づくり郷土賞
について

受賞記念発表会

講評

大賞部門

一般部門

資料編